

日韓交流コンファレンス

日本上智大学新聞学科

韓国成均館大学新聞放送学科 BK21 GCC DMC チーム

2006年12月15日(金)

【日韓コンファレンスの趣旨・目的】

日本上智大学新聞学科と成均館大学新聞放送学科とによる日韓交流コンファレンスは、韓国のBK21事業に基づいた海外の大学院との交流の一環として企画された。2006年度に学科創立75周年を迎えた伝統と優秀な実力を備えている上智大学新聞学科との日韓コンファレンスおよび交流は、成均館大学新聞放送学科の学問的な力量の強化はもとより、今後、定期的な学術交流のための基盤を整えるための土台として期待される。

なお、両学科の学問的な刺激およびコミュニケーション学における日韓の相互理解と発展を増進していくことを願っている。

【日程】

12月14日(木) 16:00~18:00 上智大学訪問・見学

12月15日(金) 12:00~13:00 打ち合わせ・昼食

13:00~18:00 コンファレンス 7号館第2会議室

18:00~ 懇談会

【論文発表】

・上智大学

- ☞ 石川 旺：日本のジャーナリズムにおけるプラグマティズム
- ☞ 鄭寿泳(博士後期課程)：メディア責任の概念的変遷に関する考察－Social Responsibility と Media Accountability を中心に
- ☞ 戸田里和(博士前期課程)：ネット利用における情報行動に関する研究－情報検索プロセスを中心に

・成均館大学

- ☞ キム・ジョンタック：東アジアにおけるコミュニケーション思想
- ☞ ソン・ユテック(博士課程)：ニュースメディアとしてのポータルサイトの規範的イメージが信頼度に与える影響に関する研究－テレビニュースと新聞との比較を中心に
- ☞ ウ・ジス(博士課程)：ブログにおける自己露出に関する研究－大学生を中心に
- ☞ イ・グニョン(博士課程)/キム・イグン(博士)：How to increase the Effectiveness of Internet Ads- in terms of format and media context
- ☞ ムン・イルボン(修士課程)：携帯電話の使用による対人関係の傾向および葛藤の解決戦略の差異に関する研究
- ☞ キム・ヨンギ(修士課程)：ケーブルTV局のe-顧客センターと視聴者苦情の関係性に関する研究
- ☞ カン・ソンユ(修士課程)：集合的行動としてのスポーツ・ファンシップ(fanship)に関する研究－2006年度サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会を中心に

【BK21 (Brain Korea21: 頭脳韓国 21)

韓国政府が1999年度から7か年にわたって実行している教育改革政策であり、21世紀を先導する人材養成を目的としている。2006年度からは第2段階 BK21 事業が進められており、第2段階事業では、総額 2兆300億ウォン規模の予算執行が予定されている。BK21 事業は、世界レベルの研究が行われている大学院中心の大学を始めとし、各地域の産業と連携し、特性化されている地方の大学などを育成することによって、創意的・国際的な高級人材を排出し、優れた研究成果を確保すること、国内産業との産学協同を通して産業の発展と国際的な競争力を高めていくことを第一の目的としている。

【成均館大学 新聞放送学科 BK21 Global Culture Communicator (GCC) 養成事業団】

成均館大学新聞放送学科のBK21 GC 養成事業団における事業ビジョンは、世界最高レベルのグローバル・カルチャー・コミュニケーターの養成をその目的としている。グローバル・カルチャー・コミュニケーターとは、グローバルなマインドを保ち、デジタル・メディアおよび文化コンテンツの企画、制作、分析、国際的マーケティング・コミュニケーション関連の専門知識と経験を共に具えた文化エリートのことを意味する。なお、事業団は Digital Media & Culture(DMC)チーム、Cultural Contents Planning & Production(CCPP)チーム、Cultural Marketing Communication(CMC)チームの三つを持って構成される。

- ①DMC チーム：デジタル技術の発達とメディア市場のトレンド変化に関する専門知識を備える人材の養成を目的とする。
- ②CCPP チーム：21世紀の文化産業の動向と、時代の要求に応える韓国文化コンテンツ(映画、放送、デザイン、音楽、ゲーム、インターネットなど)を発掘し、グローバル化および特性化を推進していくための人材の養成を目的とする。
- ③CMC チーム：韓流を中心とし、韓国文化に対する理解とグローバル化・ブランド化を目指し、プロフェッショナルな文化コミュニケーターの養成を目的とする。

【成均館大学】

1398年 国立高等教育機関として成均館を設立(ソウル。現、成均館大学所在)。甲午改革以降、新学制の実施によって、3年制の経学科を設置。経学科は儒教の経典を中心とし、歴史、地理、数学などの近代的なカリキュラムを備えるなど、近代大学として条件を整っていた。国権被奪の後、日本によって教育機能を剥奪され、経学院に縮小された。

1930年 民族教育に関する強い要求に応え、明倫学院を設立。

1939年 明倫専門学校として昇格。

1946年 独立と共に、財団法人(現、学校法人)成均館大学設立。初代学長としては独立運動家・民族指導者として名望の高い金昌淑(キム・チャンスック)が就任。教訓は、「仁義禮智」。

1953年 総合大学として昇格。

2003年現在、17の大学院、7系列・22学部、56専攻(学科)で構成されている。

【日韓コンファレンスの韓国側参加者】

ベック・ソング(BK21 Global Culture Communicator 事業団 団長)

クォン・サンヒ(Digital Media Contents チーム長)

キム・ジョンタック

ソン・ヘリョン (以上、成均館大学新聞学科 教授 4人)

キム・デファン (慶州大学 放送言論学部 教授) 新聞学専攻出身 新聞学博士

キム・ウィゴン (成均館大学 BK21 事業団、新聞放送学博士)

成均館大学 新聞放送学科 博士課程 3人

成均館大学 新聞放送学科 修士課程 3人